

一般国道191号(山陰自動車道) 三隅・長門道路に係る新規事業採択時評価

- ・主要な観光地間のアクセス性の向上により、広域周遊観光の拡大を支援。
- ・信頼性の高い物流ネットワークが形成され、輸送時間短縮や時間信頼性向上などの物流効率化により、地域産業の活性化を支援。
- ・現道の防災面での課題箇所を回避し、災害時の救援活動等においても機能する信頼性の高い道路ネットワークを確保。

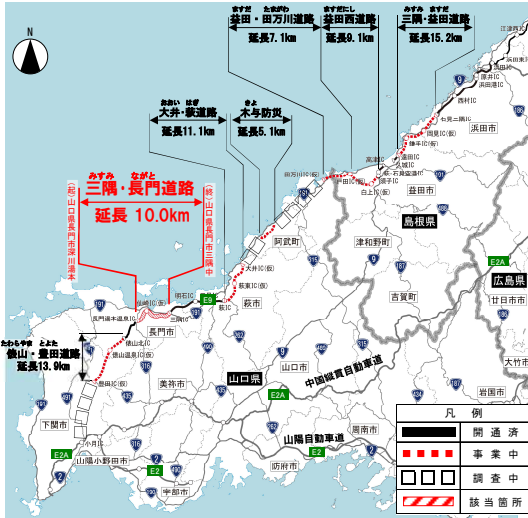
1. 事業概要



図1 広域図

- ・起終点: 山口県長門市深川湯本～山口県長門市三隅中
- ・延長等: 10.0km (第1種第3級、2車線、設計速度80km/h)
- ・全体事業費: 約590億円
- ・計画交通量: 約10,100～12,000台/日

乗用車	小型貨物	普通貨物
約6,400台/日	約1,800台/日	約3,800台/日



2. 課題

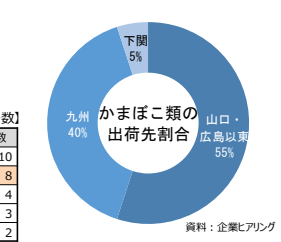
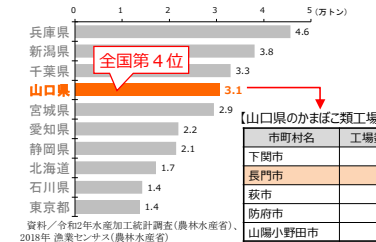
①広域周遊観光に必要不可欠な道路ネットワーク

- ・山口県北部には、優れた観光資源が多数存在し、長門市・萩市は年間100万人近い県外観光客が来訪。(図3)
- ・高速道路がネットワークしていないため、九州方面からの観光客が県北部まで周遊しておらず広域的な観光周遊に課題がある。(図3)



②信頼性の低い物流ネットワーク

- ・山口県のかまぼこ類生産量は全国第4位で、長門市は多くのかまぼこ工場が立地する生産拠点である。(図4)
- ・長門市で製造されるかまぼこは、毎日、主に陸路で全国に向けて出荷されている(図5)が、輸送時間の短縮や通行規制が発生しない安定した輸送等が物流面での課題となっている。



③災害に対し脆弱な道路ネットワーク

- ・並行する現道区間には、土砂災害警戒区域や洪水時浸水想定区域が存在するなど、防災上脆弱な箇所が集中。(図6)
- ・緊急輸送道路に指定される国道191号や国道316号で通行止めが発生した場合、救命・救急活動や緊急活動に支障をきたすことが懸念される。(図7)



3. 整備効果

効果1 広域周遊観光の拡大

- ・移動時間の短縮により、広域周遊観光の拡大を支援。
- 下関市～長門市の観光拠点(仙崎)までの所要時間【現況】83分⇒【整備後】67分(約16分短縮)

効果2 物流の効率化による地域産業の活性化

- ・九州方面への輸送時間の短縮や時間信頼性の向上により、企業活動を支援。
- 下関市～仙崎漁港までの所要時間【現況】83分⇒【整備後】67分(約16分短縮)

効果3 災害に強い道路ネットワークの確保

- ・災害時の交通障害や道路寸断による広域迂回を解消。
- 湯本地区～長門市役所の迂回時間(災害時)【現況】48分⇒【整備後】13分(約35分短縮)

費用便益分析結果(貨幣換算可能な効果のみを金銭化し、費用と比較したも)

B/C	EIRR ^{※1}	総費用	総便益
1.3 (0.5)	6.0% (0.8%)	8,469億円 ^{※2} (459億円 ^{※2})	10,996億円 ^{※2} (239億円 ^{※2})

注) 上段の値は浜田JCT～小月JCTを対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の費用便益分析結果
 ※1 EIRR: 経済的内部収益率 ※2: 基準年(令和4年)における現在価値を記載(現在価値算出のための社会的割引率: 4%)

道路ネットワークの防災機能評価結果

改善ペア数	脆弱度		累積脆弱度の変化量	改善度		評価
	整備前	整備後		通常時	災害時	
25 (5)	0.92[C] (1.00[D])	0.35[C] (0.32[B])	▲204.14 (▲31.86)	0.09 (0.00)	0.72 (1.00)	○ (◎)

注) 上段の値は浜田JCT～小月JCTを対象とした場合、下段()書きの値は事業化区間を対象とした場合の防災機能評価結果



一般国道191号(山陰自動車道) 三隅・長門道路に係る新規事業採択時評価



全体延長：10.0km
 土工延長：5.1km (51%)
 橋梁延長：1.7km (17%)
 トンネル延長：3.2km (32%)

凡例

	対象区間
	高速道路
	一般国道
	主要地方道
	一般都道府県道
	橋梁構造
	トンネル構造
	死傷事故率全国平均以上箇所 (46.4件/億台キロ)
	事故による通行止め発生箇所 (H24～R3)
	事故による通行規制発生箇所 (H24～R3)
	交通量(万台/日) (H27全国道路・街路交通情勢調査)
	車線数(2車線/4車線)
	市街地・集落
	洪水時浸水想定区域
	急傾斜地崩壊警戒区域
	土石流警戒区域
	要防災対策箇所
	二次医療機関

